社会投企、ジェンダー・バランス、 ウクライナ侵略



青山学院大学 名誉教授·弁護士 **新倉 修**

「たってちょっとしたマイ・ブームと呼べるものがある。それは、広渡清吾『社会投企と知的観察』(日本評論社・2022年) という挑戦的なタイトルの時評とともに、佐藤千矢子『オッサンの壁』(講談社現代新書・2022年) という毎日新聞政治部長(執筆時)の、これもまた挑戦的な時評である。

広渡氏は日本学術会議の会長 も務められ、現在は「安全保障 関連法に反対する学者の会 | や 「安保法制の廃止と立憲主義の 回復を求める市民連合 | で中心 にいる。まさしく「社会投企」の 手本とも言える。こんなエピソ ードもある。同氏が東大執行部 にいた時、定年が段階的に65歳 にまで延長される制度改革が あった。その趣旨を尋ねたら、 再就職が難しくなっているので 「食べられるようにしなければ」 という答が返ってきた。確かに 地味な基礎研究をしている教官 ほど再就職の門戸は狭い。そう 考えると、にわかに広渡氏が出 エジプトの指導者に見えてきた。 監督官庁や財務当局との厄介な 交渉もあったはずだから、広渡 氏が総長選挙のファイナリスト に残ったのも、正にむべなるか な。状況は違うが、私も日民協

の理事長として、改憲問題対策 法律家6団体の一員として「社 会投企」しているので、同志的 な連帯感があり、その一端は、 広渡古稀『民主主義法学と研究 者の使命』(日本評論社・2015年) に寄稿した「法律家の国際連帯 と平和への権利」で明らかにし ている。

佐藤氏は、「女性初の」と呼ば れることに抵抗感をもっている 政治ジャーナリストである。永 田町の「生態観察」を通して、 霞が関を始めとして西新宿や丸 の内、六本木あたりまでも視野 に入れて、ジェンダー・アンバ ランスの考現学を展開している。 その観察や背景説明は、いちい ち納得できる。私が多少とも知 見のあるフランスでは「司法の 女性化 la féminisation de la justice」がすでに早くから進行 している。実際、黒い法衣を弁 護士も着けているので、法廷の 立ち位置を見ないと、ジェンダー の広がりは実感しにくいが、女 性が最高裁判所(破毀院)の長官 になったのは1例しかなく、シ モーヌ・ロゼース (Simone Rozès) 長官が誕生したのは1984年で あった。要するに、フランスも 必ずしも「天国」ではないが、充 実した社会保障や医療・教育制 度とともに結合姓の採用やクォ -ター制の導入など見習うべき ものは多い。

それにしても、ロシアのウクライナへの侵略と4州「併合」は目に余る。戦争中に、かつ、こそこそと(国際監視団もなく)行われた「住民投票」を口実にして、9月30日に併合宣言、10月

5日に併合条約の調印式、議会による承認、ロシア憲法裁判所による合憲判断と突き進んでテラ月29日にグテーレス国連事務総長が述ったがという評価には値しない。カに兵でに9万人のロシア中でに9万人のロシア中でしたと伝えられるところが戦死したと伝えられるとこの動員をかけたところ、客観的に見れば、逆にはが見えてきた。

案の定、国連緊急特別総会で は、この「併合」問題を糾弾し 併合は無効だとする決議案が提 出され、10月12日に143:5:35 という圧倒的多数で可決された。 直接的な法的拘束力はないとし ても、法的意味は重い。ロシア がウクライナを侵略したことを 糾弾する決議(141:5:35)と比べ ると、反対と棄権の票数は変わ らないが、賛成が2か国増えた。 投票に参加しない国がなお10か 国程度いるが、「併合」は国際的 な公的承認を得られていない。 前号の特別掲載「戦争は止めら れる! 改憲も止められる!」でも 書いたが、ロシアを中心とする 地域共同体会議や中露が主導す る上海協力機構を除けば、ロシ アも参加するすべての国際機関 は、ウクライナ侵略を戦争犯罪 として厳しい態度を示している。

ジェンダー・アンバランスも 戦争も、過去の遺物になりつつ ある。われわれは力を合わせて これを「博物館」に送らなけれ ばならない。

(にいくら おさむ)